

## オオアカゲラ

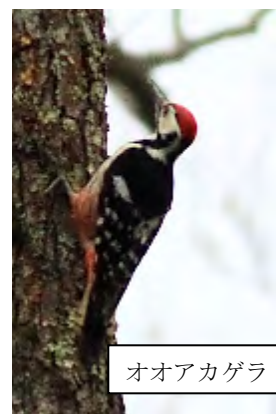
2012年6月27日。澄川活動日でしたが、私用多重につき不参加でした。午後一番で出かけようとしていた時、酒井さんから電話が入りました。「アカゲラのヒナを拾った、羽が全部は生えていない、帰途石川さんに届けさせる」数日前にハシブトガラのヒナにつきあったばかり、又かよ、と思いましたが、アカゲラのヒナとあっては捨て置けません。ベースのテントの近くで拾ったとのこと。

届けられたヒナは想像していたよりも、ずっと大きくて重く巢立ちした後だと感じました。くちばしの黄色もなく、キックも力づよく、咬みつく力もさすがはキツキと思わせられました。全身ずぶ濡れなのです。この日はカンカン照りの快晴でしたので、濡れたのは水に落ちたものと判断しました。出かける前に水だけ飲ませて、急いで帰宅しました。

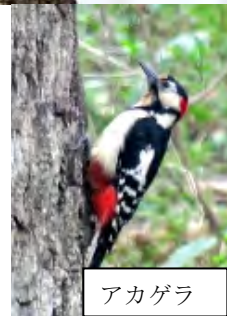
ハシブトガラ同様にまずは卵黄を食べさせるとスポイドに食いつきます。お腹が空いていたようでした。ドライヤーで羽を乾かすとアカゲラらしくなりました。図鑑でよくよく調べましてオオアカゲラと同定しました。頭の赤さから雄のようでした。部屋の中に放ちますと、トットトツと歩きます。歩き方は正常。これはすぐに森に還した方がよいと判断しました。

翌28日、朝早くから澄川に行きました。アカゲラの声がしたのでヒナを放ちました。ヤマシャクヤクの場所です。ヒナは鳴きながらトットツと歩き去りました。アカゲラの成鳥が近づいてきましたが、親ではなかったようでヒナを見てはいましたが飛び去りました。少し追跡するとクリの木にひょいひょい登りはじめました。キツキ独特の登り方です。みるみる手の届かない高さになり、さらにどンドン登ってすぐに木の葉に隠れて声だけが聞こえる状態になりました。声は絶えず発して親を呼んでいるようでした。私の感度の悪い耳でも10mばかりも離れていて聞こえますから、親鳥ならば50mの範囲で聞き取ると思われましたので、安心して帰途につきました。このところエゾライチョウに始まり、エゾユキウサギ、ホオジロ、ハシブトガラ、そしてオオアカゲラと立て続けに子供たちとの付き合いです。接する時間が長くなりますと情が移りまして、別れがたつらくなりますので、別れは早い方がよいのです。

アカゲラとオオアカゲラの見分けは、みでオオアカの方の頭は全体が赤いのですが、アカゲラは後頭部のみが赤いのです。このヒナは額の部分からすでに赤い兆しがありました。



オオアカゲラ



アカゲラ